

労働組合の方にお渡し下さい。

かたくり

大学生協ユニオン東京



第3期
第16号
2009年
4月1日

発行：生協労連東京地区大学生協

非正規労働者合同労働組合

発行責任者：書記長 坪井盛治

〒150-0001 渋谷区神宮前 6-24-4 大学生協渋谷会館

TEL:03-3486-6694 FAX:03-3486-6625

E-mail: tsuboi@tokyo-roukyou.jp

コープイン廃業問題で

和田専務が「お詫び」

■「雇用や生活の不安をはじめとして、精神的にもつらい思いをさせたことについて、
私が代表しましてお詫び申し上げたいと思います」■■■

3月30日、渋谷会館にて大学生協ユニオン東京と連合会理事会は第7回団交を開催。そのなかで理事会は3月14日の全国理事会報告を行い、廃業にともなう雇用・生活不安、精神的負担に対して「お詫び」をしました。

以下にその概要を報告します。（小見出しは発行者による）



ないことを報告しました。

改めて、コープインのみなさんに対してお詫びの気持ちを伝えたい。理事会として深く反省し、今後の運営に生かしていくことを理事会として確認しました。

2. 会議で出された二つの意見

(1) 存続を前提としたシミュレーション。利用者が増えないと存続は無理なのか

組合員利用の点では、シミュレーションも出しましたが、現状の稼働率非常に高い。利用者を大きく伸ばせない現状。競合もあります。利用単価を改善しようとするためのさらなる改装も必要と説明させていただいています。

(2) 雇用の斡旋は具体的にどのようなことを検討しているのか

雇用斡旋については、誠実、誠意を持って行っていくことを説明しました。就職支援についてはしっかりやってほしいと会長理事からも言われております。

3. 廃業せざるを得ない理由

(1) 連合会本体の経営改革が急務

新共済連の設立をしなければいけない状況で、連合会本体の経営改革が急務。大学生協の連帯活動、1982年に共済事業開始。福武先生が大学生協は学生同士の助け合いをすると同時に、大学生協の財政基盤を確立するために共済を始めるべきとの助言。現実には、ホテル事業も各種連帯事業も共済の収益にかなり依存していた。昨年4月から生協法。共済事業の分離が法律で決まりました。共済含めて一つの事業体だったが、共済とそれ以外を分けて経営をしなければならない。連帯の費用についても共済からの負担がなくなった。厚労省からは、共済連を作ること自身は理解するが、「連合会本体は大丈夫なのか」と指摘を受けています。連合会自身が、分離によって赤字になっては困るので、ちゃんとした事業計画を作りなさい、と指導されている。連合会本体がナショナルセンター的役割を果たすには、連合会経営の改革を早急にすすめるなければならない。連合会

[1] 和田専務

はじめに、今回のコープイン渋谷の廃業に関して、みなさんに雇用の不安や生活の不安をはじめとして、非常に精神的にもつらい思いをさせたことについて、私が代表しましてお詫びを申し上げたいと思います。（理事会交渉団全員が深々と頭を下げる）。

3月2日の団体交渉で合意をいただいたということでもあります。もちろん渋谷のみなさんが納得されていないことは存じ上げております。その時の約束で、理事会での審議内容、報告内容を今日報告する約束でした。専務理事として報告したいと考えています。

1. 3月全国理事会への報告

(1) 廃業にいたる判断の数値根拠について

私どもの数値自身も問題があった。積み重ねて整理したものを資料を添えて説明させていただいております。4月廃業と9月廃業の比較、経営として存続するための経営計画について、理事会に詳細に報告させていただきました。

(2) 今回の廃業の問題を通じて、教訓化すべきこと

（理事会で文章化した教訓を口頭で説明、略）。連合会そのものを再編しなければならない。連合会内局における組織のあり方、一歩踏み込んでみなさんが働きやすい職場作りのため奮闘したい。

(3) 組合から出された資料

合意はいただいたが、十分理解いただいているわけでは

の収入は二つあり、230 の会員からの会費としていただく部分と事業から得られる収入。会員の経営が厳しくなかなか会費や事業収入を増やすのが困難。連合会自身が様々な部門の見直しを通して経営の改善をしなければならない。更に再投資が必要なコープイン渋谷を継続するのが難しいというのが一つの判断。

(2) 老朽化したコープイン渋谷

建物そのものの問題。壁の落下をはじめ、耐用年数が過ぎています。建て直すにはさらなる投資が必要。現状では、建物を維持し経営するのは難しいという判断。加えて、東京事業連合の建物も老朽化や地盤沈下。事業連合も建物の活用を悩まれている。この建物を維持するのが難しいという判断。

(3) 連合、連合会の機能統合

東京事業連合と連合会の役員で、事務所統合をはじめとした抜本的な機能統合を検討している。もっと厳しい時代を迎える。一緒にできることは一緒に。渋谷の土地建物の計画も検討しなければならないが、それ以上に、東京事業連合の職員 180 名ぐらい抱えている。連合会は事業連合に事務委託している。さらなる経費の削減、会員生協に対する貢献を高める。そのために連合会と事業連合の統合をすすめる。一朝一夕にはできないが、当面は、渋谷から杉並に東京事業連合のみなさんに移っていただく。事務所の統合を始めるところからスタート。今後、総務、経理の機能含めて統合し、コストダウンを。定年退職者も出る。合わせて対応していきたい。

以上が背景になっています。このような情報をみなさんに十分事前に伝え、理解を求めることが必要だったと反省しています。最後になりますが、前回の団交の合意を受け、職員のみなさんとの面談、要望を受け止めて、理事会として今後しっかり対応したいと思っています。

[2] 労組員発言

労組員 今まで何度も話し合ってここにたどり着いた。これ以上言うことはない。我々、不況の荒波の中、職を探さなければならない。それを十分踏まえていただきたい。

労組員 決定が下った以上、次に向かってすすまなければならない状況。最初に老朽化ということで廃業になるとき、どうしてももう少し、説明を丁寧にやっていただけなかったのか。二点気になる。今後の教訓というのは労組に対する回答。我々に対する回答とは受け取れない。我々はここで解雇になる。今後に出されても、我々にはプラスにならない。連合会本体、連帯、建て替えが先にあって、私たちをどう処理していくか、それが先にあったと思う。いまだにそのあたりが(納得できない)。定時とパートは、簡単に切れると踏んで、そこをぎり押ししたような対応。それがすごく残念。10 年勤務。その先もあると思っていた。今後、職探し含めてお願いしないとならない。

労組員 和田さんの話を聞いても、これから統合、これから体制の整理とか遅い。今のこの世の中を何も分かっていない。お客様からも言われている。閉館に当たって、どうということなのかと。知っている限りのことは説明している。組合員はなんと言っているか。長い間組合員でいて下さっている方は、「お宅の上は何をやっているか」と実際おっしゃっている。何人もの方が。今後、じわじわといろいろな面で影響してくると思う。もっと速いペースで立て直しを

図らないと。一つずつなどといった間に合わない。そういうところにいたと思うと情け



ない。世の中知らなさ過ぎます。残念です。最後に、福島さんにはとても感謝しています。秋山元常務(がそのまま担当)だったらもっとくるっていたと思います。ごまをするわけではない、福島さんには感謝しています。

労組員 この後、ここに何が建つのかまだ予定はないのでしょうか。何か計画があるのでしょうか。ここはシンボルだった。組合員のための宿泊施設。それがなくなり新しい計画はシンボリックなものかどうか気になる。そういうものではなく、営利に徹したものであったら、我々のやめさせ方も他に方法があったのだろう。シンボルだったら、理不尽なやり方はなかったと思う。今日は、納得していないが、終わりに向かっているので、職探しへの協力をお願いします。

労組員 4 年勤務。和田さんを拝見したのは 2 回目。廃業を決めるのに、何でここにいらっしゃらないのだろうと(思っていた)。みなさんと同じで納得はしていないが、認めざるを得ない状況。今後のことは責任、誠意を持って対応をお願いします。

労組員 今後のことはよろしくお願いします。

労組員 不誠実さの結果がこういうこと。すごく残念。以上です。

労組員 最初の謝罪の内容。その後理由をつけられた。老朽化にしろ他のホテルとの競合にしろ、すべてそれはあなたの方のせいで起こったこと。わたしたちのせいと、はつきり言っていたきたかった。みんな思っている。遅すぎる。お金をもらって仕事をして生活していることをすこくなめている。こんな経営していればそれはそうなる。この先、私たちのように首切られる、どこかに飛ばされることが生協内で増えてくる。それをする前に、上でたくさんもらっている方々、自分の給料、ボーナスをカットして雇用を守ることをして欲しい。AIG と一緒。首を切るのは簡単。首を切れば不況はもっと大きくなる。お客様から言われた。

「大学生協自体の経営が危ないのか」と単刀直入に聞かれた。答えられなかった。この発言をどれだけ重く受け止めるか、本当に危機感を持ったほうがいい。あるお客様は、「大学生協なのに」とおっしゃっていた。私もクリーンなイメージで入協した。よけいショック。怒りが収まらない。

労組員 過程はどうあれ誠実に対応してくださったことに関しては感謝している。謝罪、教訓化という形にはしてもらったが、納得はしていません。専務から理由をあげられた。共済分離、追い込まれた事業計画の犠牲者に僕らになる。老朽化にしても、メンテナンス計画が十分立てられていなかった。このような形で締めくくられようとしているが、経営責任がない訳ない、責任の所在を明確にして、しかるべき人が責任を取るのが大人の社会の常識だと思う。結局それはない。謝罪、教訓化されて、僕らの保障もちゃんとしてくれています、だからいいという問題ではない。こういうことにいたった経緯、理由、すべてにおいて、現

労働組合の方にお渡し下さい。

場レベルの目線に立てなかったことが理由。現場の声を聞こうとか、実際にそこを見てみようという姿勢があれば、こういうことにはならなかったと思う。僕らだけでなく、今後のために。他の会社でもそういうことが問題になっている。もう少し現場の声を聞けばよかったというのはここだけではない。その姿勢を取り込むだけで変わってくる。教訓化したいなら、そこを大事にして欲しい。

労組員 数ヶ月前、自分が職を失うとは思わなかった。この職場で定年まで働こうと決心して転職させていただいた矢先。どうしていいか思い悩む。今日、会社が非を認めて謝罪してくれても拭い去れないが、私の中で区切りをつけて、最後まで感謝の気持ちをこめて働きたい。就職、前途多難ですが、前向きに頑張りたいと思う。今回の団交でいままですら正面に出てなかった体質がオープンにされたことで、今後には少しは影響を与えられた。文章だけでなく、部下や後輩の言葉に誠実に耳を傾けてください。そのことだけをお願いします。

[3] 専務回答と委員長見解

和田専務 もう少ししっかり、十分な情報共有なり説明なりすればよかったと、反省しています。申し訳なかった。この後のこと、東京事業連合、連合会の理事会でも十分な検討ができていない。案はもちろんありますが、最終的に決まっている案はない。どちらにしても建物の老朽化、建て替えや改修の仕方について、あと半年ぐらい議論が必要。収益事業も景気が悪く簡単にはいかない。みなさんの思いを受け止めた再開発。慎重に議論したい。シンボリックになるかどうかはこれからの議論。これから新しい建物を建てることはないと思うが、杉並の会館が新しいシンボルになればと思っている。もう少しお時間を。

この場への参加について。大学生協全体の現場の問題については分担として福島常務に。私は理事会、学生など組織関係を担当。分担した関係で、福島常務に代表してやっていた。他意はない。福島常務に代表をお願いしたことは、私としては良かったと思っていますし、重ねてご理解をお願いしたい。みなさんから言われましたように、教訓化は今後なのかとの話。十分話し合いができなかったことはお詫びするしかない。私の責任として、今後このようなことがないように、今回教訓化したことは今後の業務運営に必ず生かしたい。アルバイト、パート、定時含めて、みなさんの意見を今後はしっかり受け止めながら、業務改善、改革と一緒に取り組みたい。ご理解いただきたい。

土屋委員長 この交渉が始まった最初のとき、強調させていただいたことは、人を雇用して働いてもらっているということは、それによって暮らしもしているし、働くことで社会に対する役割を果たすこと、自分の存在を確認していくことである。それをきちっと受け止めて欲しいと話した。異動すればいいから解雇ではない、という言われ方をされた。働くというのはそんなものではない。生きていくことそのもの。その重みを受け止めて欲しかった。この間交渉してきたことは、それを受け止めて欲しかったということ。進め方も結局はそのこと。

経営で見るのは数字。それは必要だが、その数字がどのように作られているのか、みんなの力が発揮された中での数字なのか。それを見ないと結

果だけであり、経営改善の為の方向性は見えてこない。実際には人が働いて事業が成り立っている。パート、定時、正規、重みの違いをつけてしまいがち。そういうものではない。ここにいる仲間がコブインを支えてきた。ここで働いている仲間はもっとよく処遇されて当たり前。ヨーロッパでは（雇用）形態が問題ではなく均等待遇だ。そういう多くの非正規労働者が、やりがいと誇りと責任を持って働き、大学生協が、社会が成り立っていることを、忘れないで経営して欲しい。労働組合的にいえば働く尊厳、働く誇りを守ること。働いている人が見えなくなる。実際には人が働いて事業が成り立っている。みなさんが言われたように、一人ひとりを、それだけでは間違えることもあるが、バランスよくしていただきたい。パート、定時、正規、重みの違いをつけてしまいがち。そういうものではない。そのこと自身、日本がおかしい。ヨーロッパでは（雇用）形態が問題ではない。ここで働いている仲間はもっとよく処遇されて当たり前で、コブインを支えてきた。そういう人が働き、社会が成り立っていること、労働組合的にいえば働く尊厳、働く誇りを守ること。

今後の雇用について、みんなが納得して新しいやりがいを見つけていけるよう、誠意を持って対応を。

今後の大学生協の運営。いろいろなことが生かされなければならない。今の大学生協の経営実態はどうなのか。私は地域生協の出身。大学生協は再建状態だと思う。厳しいとは思っていても、そこまでの認識はされていない。連合会が厳しいのは、必要な経費をもらっていないから。単協が厳しいからももらっていないというのが、本来はそうではない。大学生協の実態については、表面化させてその中でみんなの力を引き出して変えていく。真剣に模索し深めていただきたい。

心配なのはコブイン京都。福島さんが言われるほど、大丈夫だとは思えない。数字を見ていて存続できるのかと心配。教訓化されたことはどういうことなのか、コブイン京都でもきちんと報告していただいて、それを受けて、コブイン京都を継続できるよう、やっていただきたい。私自身もいろいろところで閉鎖の問題をやってきた。今回、働くことについての重みを一番感じた。重かった。それだけコブインの仲間の仕事は、お客様から評価されていたし、努力してきた。実績、評価、自信がありましたし、コブイン渋谷という職場がなくなるのは残念ですが、この犠牲の上に、本当に教訓化されるか不安です。どこまで受け止められているのか。これからのみなさんの行動がすべてをあらわすと注目しています。「変わった」と思われるよう、やっていただきたい。

和田専務 肝に銘じたい。これからの私たちの行動を見ていただいて。誠心誠意取り組みたい。みなさん、申し訳なかったですが、今後も大学生協は頑張りますので、よろしく願いいたします。

